

# わの会通信

Ver. 42

2021年7月15日発行 発行元：NPO法人わの会 住所：府中市住吉町1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626



みなさん、お元気ですか？コロナ禍における私たちは、ワクチン対応の遅れなどもあり、まだまだ安心した生活を取り戻すことのできない状況におかれています。このような中であっても、わの会の各部門の活動は、可能な限り、それぞれの事業役割を果たすべく努力を重ね、昨年度はコロナ前と比べて、より多くの仕事をさせていただきました。お力添えをいただきました、各方面の皆様には、この場をお借りし、深く御礼を申し上げます。

今年、わの会は府中地域福祉を考える会として誕生してから26年目になります。この間、わの会はどんなに重い障害を抱えていても、よりよく生きること、より豊かに生きること。そのために支え合うこと、つながること、創り出すことを「わ」になって語り合いながら、わの会活動を育んできました。今年度、わの会はこの地域で終の棲家としてのホーム作りにとりかかる計画です。最後まで「私らしく」生きることが出来るホームの建設です。実現までみなさまのお力添えをどうかよろしくお願いいたします。

人が人として生きるための社会保障の拡充求めて、一緒に考え行動しましょう。

2021年6月30日 NPO法人わの会理事長 佐々木公一



特定非営利活動法人 **わの会**

府中市住吉町1-60-10

TEL：042-360-3626

わの会HPはこちら→



## 【5つの事業】

- ①府中自立支援ネットワークわの会（自立支援）
- ②デイサービスりんりん（地域密着型通所介護）
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座（研修事業）
- ④ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）
- ⑤わの会相談支援事業（相談事業）



## 第25回総会 ～生田目和美運営委員長挨拶～



世界中がコロナの影響を受けた昨年度、多数のイベントが中止となった中で行なわれた第25回府中自立支援ネットワークわの会総会。

わの会会則の目的にある「社会的支援を必要とする人々が、人間らしい生活を築くためにお互いの支えあい、学びあいを大切にしながら自立を目指す。また、そのための支援の輪を広げる。」この理念が、今まさに求められているときだと思います。この目的を実現するため、一年間、運営委員長として決意を新たにするとともに総会となりました。



▲老いを語る会

いる」会員の皆さんに「そんな事できない」「そんなの無理」で終わらせない対応ができるネットワークをどう作っていくか改めて考えていきたい。

2020年度は施設に入所されていた会員さんが亡くなられるケースが複数あり、「もう少しなにかできなかつたらどうか」との悔いが残った。高齢者や施設入所者が増えているわの会としても、問題意識を持って会員の皆さんとのつながりを作ってゆきたい。

## 新年度に向けて



コロナ禍の中で「あたらしいやりかた」を掲げて、大規模な行事でなく、少人数で回数を増やす取り組みや、リモート参加の「語る会」を行うことでわの会の繋がりを継続してきました。新年度に向けては、2021年度は「制度の隙間にいて困りごとを抱えて



▲ZOOMで歌う会



## 相談事業

### 2021年度わの会相談支援

### 目標と課題



わの会相談支援は、単にサービス等利用計画の作成にとどまらず「本人の安心を引き出せる相談」「断らない相談」をめざしたいと思います。昨年度から二人体制がスタートし、精神障害や、医療的ケアの必要な障害児への対応を強化できるように研修を進めています。その結果、今年度に入り、府中市の充実強化システムも適用可能となり、相談事業の拡充

に向けて努力していきます。

主たる目標と課題は、「本人の要望をしっかり聞き取る」、支援者との調整を着実にすすめるために「相談員のスキルアップ」が必須です。引き続き研修への参加と学習の機会を確保していくとともに、相談件数が増えても対応できるようにしていきます。





## ケア目標は利用者さんの願いに寄り添って

利用者さん、お一人お一人のご要望に沿い、利用者さんの励みになるようなケアを目指します。そのためには利用者さんの「やりたいこと」、「なりたい自分」などのニーズについて対話をしながら、願いや希望を拾い、利用者さんの目標が達成できるような日々のケアに努めます。また自分の願いなどを伝えることが難しい利用者さんの場合は、「好きだったこと」、「かつてやっていたこと」などを語らい、その中からできることを探してスタッフとともども一緒に取り組む時間を作っていきます。「利用者さんが役割をもって、仲間の中でも過ごせるように」、スタッフ全員がケア内容や情報を共有することにこれまで以上に努力を重ね、支援に努めてまいります。利用者さんは、できるだけ元気で日々を過ごしたいと望んでいます。通所されておられる

利用者さんはどなたも、何らかの疾病を抱えておられます。りんりんは看護師を中心に健康管理に努めております。バイタルはもちろんのこと、皮膚状況の把握などにも注意を払い、進行の防止や軽減に努め利用者さんが、不快の無い生活がおくれるようにと日々努めています。またケアマネージャーや医療系の方々との連携を大切に、「利用者さんの元気」を可能な限り保持できるように努めております。

コロナの状況を見ながら今年度は以前のように夏祭りや餅つき、災害対策など地域の方々と共に取り組める計画の実行を願っています。利用者さんやご家族のご要望に、十分に応え、適切な対応がよりよくできるように私たちスタッフも研修に、励んでいきます。



### りんりんブログより 壁面工作(鯉のぼり)



4月の壁面工作は5月5日のこどもの日に間に合うように鯉のぼりを制作しました。

鯉のぼりの顔や背景に飛ばす燕は型紙を使い、線に沿ってハサミでキレイに切り取ってくださいます。

鱗を体の型紙に貼り付け、仕上げに目やヒレを色付けします。皆さんで分担しながら力を併せて出来上がりました。



鯉のぼりは『登竜門』の伝説にちなんで『どんな環境にも耐え、立派に成長するように』と立身出世を願って飾ようになったのが始まりだそうです。様々な環境を経て、立派に過ごされてきたりんりんの利用者さんにぴったりな『鯉のぼり』でした。

### りんりんブログ更新中

デイサービスりんりんでは、利用者さんたちの日常の様子をブログで配信中です。月に数回更新を目指し、担当スタッフが頑張ってます。是非、ご覧ください！

☞QRコードを読み込んでください。





## 2021年度あいあい 目標と課題

### 1、目 標

#### ①チームワークの向上

利用者さんのニーズを的確にとらえ、在宅での生活が安全、安心に営むことが出来るようにチームワークの向上を図ること。

#### ②情報共有

サービス提供責任者が全利用者さんの課題を把握できるようにするために情報共有を図る。

#### ③会議の回数を増やす

困難課題の解決方法や情報共有のためにも今年度はさらに会議の回数を増やす。

#### ④サービス責任者の複数体制とヘルパーのスキルアップ

時間数の多い利用者さんへの対応は、サービス責任者の複数制を確立しニーズの多様化やヘルパー間のスキルの統一等に務める。

### 2、課 題

#### ①法人内に痰吸引指導者資格を持つスタッフの育成

年4回実施されている東京都の研修では、利用者さんの要望に沿うケアが出来ずにいる。できるだけ早くに利用者さんの要望に沿えるように、いつでも、だれにでも吸引ができるヘルパーの育成に努める。

#### ②同行援護資格者を増やす

要望の多い同行援護に対応するために、資格者を増やす講座を行う。

#### ③安心できるケア体制の構築

医療行為を伴う単身者世帯へのヘルパー派遣についてはヘルパー、利用者双方にとって安心できるケア体制の構築に務める。

#### ④スキルと経験と年齢を生かした適切なシフト作成

事業所も17年目になり10年以上の勤務者が一定の比率を示している。特に70歳以上のヘルパーのシフトにあたっては、当該ヘルパーの意見や要望を聞き、スキルと経験と年齢を生かした適切なシフト作成にあたる。



### 研修事業

## 2021年度研修事業 目標と課題

昨年度は、4回重度訪問介護研修を予定しましたが、コロナのため3回の実施になりました。受講者は38人、当法人に勤務実績のある方は9人でした。受講生の多くは看護専門学校が2校、その他の大学が4校でした。

今年度は、5月から来年3月まで5回の開講予定です。重度障害者のケアに即した研修内容（喀痰吸引、胃瘻、コミュニケーション）を充実する。さらに、他事業所からの研修者が参加できるよう広告し、地域の介護力アップの一助を目指す。また、昨年開講できなかった同行援護従事者養成研修の実施に向けて検討を進めます。



**最**初5分間動かず同じ姿勢でいる体験をして、動けない事はとても辛く、痒い所もかけないと感じました。今後ケアをする際は、もっと細かいところまで気を配り支えられるヘルパーになりたいと思いました。また佐々木さんとお会いして同じALSでも受け持っている方とでは症状や状態が大きく異なっているため、改めて患者さん1人1人に合った個別性が大切であると思いました。(N・Y)

**重**度の障害がある方に、研修で触れあってみると普通の人と変わりなく、会話を楽しんだり、嬉しそうに食事をされていた。とても勉強になりました。実際ふれあうことが大切だと学びました。(S・T)



# 2020年から 2021年にむけて



NPO法人わの会事務局長 志鎌哲

## ◇コロナ禍、逆風の中を歩む

2020年は新型コロナウイルスの感染対策に追われた年でした。しかし、年度を振り返るとわの会の仕事は減ることはありませんでした。介護事業所を無くすわけにはいかない国の補助もあったと思いますが、「府中地域福祉を考えるわの会」時代から実践を重ねている障害者や高齢者など社会的に弱い立場の人々の地域生活を支える仕事は、社会を支えるものとして欠かすことのできない、求められている仕事であるからだともいえるのではないのでしょうか。

## ◇ 2021年は介護報酬改定がありました

結果としては0.7%のプラス改定ですが、内容としては新型コロナを含む感染症対策と「科学的介護」を推し進めるためにプラス分は割り当てられ、訪問介護などはほとんど据え置きとなっています。その一方で利用者負担を二割にしてゆくなど介護保険を必要とする人に対する負担は増す計画です。このまま実施されると、国は介護保険制度の維持のために給付を抑制し国民に我慢を強いることになります。

高齢者福祉のみならず、障害者福祉においても「65才で介護保険に移行したときに同じサービスが受けられなくなる」との理由をつけてサービス支給を抑制しようとする動きがあります（「その人だけでなくサービスを他の人にもいきわたらせるため」との説明がありました。このような行政のやり方では一人一人の生活は守れない）。

## ◇今できる事に取り組む

そのような状況下で、わの会は地域生活を

望む人々の声に応えるべく、次の一手として入所施設建設を計画しています。支援を受けながらも暮らし続けた人々がいよいよ高齢化し、ひとりで暮らし続けることが難しくなっても、見知った地域で、見知った人々と生きて行ける場所が求められているからです。今のわの会に大きな施設を作る資金力はありませんが、この望みは待たないです。すでに何人かはこの世を去りました。しかし、場所を求める声は止みません。「今できるわの会の施設づくり」が模索されています。そして、今までの事業もまた発展が望まれています。

## ◇「わ」を広げる人づくり

今年度のわの会は、新しい事業の着手と、わの会をこれからも支えてゆく人材の育成に力を入れていきます。新たな人材の確保にも取り組みますが、わの会の中にある力をより大きなものにしてゆくために研修を計画していきます。その力で、現在の事業を発展させてゆきます。

昨年度、コロナ禍の中でも自立支援ネットワークは多くの繋がりを得てきました。ヘルパーステーションあいあいも細心の注意をもって利用者の支援が途切れないように活動を続けました。デイサービスりんりんは高齢者の昼の居場所をしっかりと守っています。感染拡大防止のため多くの研修が中止となる中、対策を立てて重度訪問介護研修を実施することができました。相談支援の件数も増えています。今を乗り越えて未来のために、できること、やれることはまだまだあるのだと思います。



府中市在住の岸堅治さん(現在85才)は、海外、国内と飛び回るビジネスマンでした。仕事盛りの44歳のとき、網膜色素変性症を発症し、60歳の時に全盲に、その後府中に引越し、視覚障害者として福祉関係の団体に関わりながら、23年前からずっと小学校4年生の授業で講演をされています。子ども達に人気の学校講演についてお話を伺いました。

## Q1◆ 小学校講演をするきっかけは？

23年前、近所の第2小学校のPTA総会で講演をしたのが好評で、役員さんから子供たちに話して欲しいと頼まれたのが始まりでした。年6〜7回、市内の小学校で4年生の総合学習教科の時間に講演しています。去年はコロナのため中止のつもりが、第2小学校だけ講演することにし、他校の先生から熱烈なオファーがあったので、その講演を社協の方が撮影し、いくつかの小学校でビデオ講演をしました。以前は、中学1年生の授業や校長先生の集会、カトリック教会でも講演したことがあります。

## Q2◇ 視覚障害者の立場で子供達にどんなメッセージを伝えていますか？

共に生きる社会という授業なので、共に生きる社会はお互い助け合うこと。大人に助けられているあなたたちも、自分ができることを助けてあげること。そこで大事なのが相手の立場にたつこと。私はいじめのニュースが一番嫌なんですけど、いじめられた相手の立場にたつことで、つらい気持ちを感じいじめができなくなる。そして、人のみならず全ての

ことを愛することと自分を変える勇氣という2つが、相手の立場に立って考える基本になりますというメッセージを伝えています。

## Q3◆ 子供たちは、飽きないでとても興味深く聞いているようですね。

1. 目を大切にする。  
(目を閉じて、目のみえない体験)
2. あ・く・ま退治の話(詳しくはQ4)
3. 希望をもって生きる
4. 共に生きる社会
5. 命を大切する。

講演は、こんな構成で話しています。例えば、もしあなたたちが1日中目が見えなかったら、朝から晩までどんなことになるかという物語を書いてもらう。私はテレビを見ないので、今流行りの有名人をヘルパーさんに聞いて、去年は大谷翔平野球選手を主人公にしました。共に生きる社会では、愛と勇氣はアンパンマンで、自分の顔をちぎってまで相手にものをあげるとか、アンパンマンのアニメの話を織り交ぜながら、90分(2時間授業)、子供たちの興味のある話題をおりませ話すと、飽きないで一生懸命聞いてくれます。



#### Q4◇ 多くの子供たちの感想にある、あ、く、まとはなんですか？

私は、小学4年生の時あまり勉強もできず、運動もできない、ぼやっとした子供だったのです。それを心配した私のおじいさん（当時70歳位）がこんな話をしてくれました。

「人の心には、3人のあくまが住んでいるんだよ、あくまの『あ』はあきらめる、『く』はくじける、『ま』はまける、その3人のあくまが足をひっぱっているんだよ。だから、勉強もできないし、運動もできないんだ。それで大変なんだ。あくまを退治しないと前へ進めないよ」と言われました。

その時、2つ嫌いなものがあったって…算数と運動でした。（ヘルパーさん「え～想像がつかない」）それでなんとかしたいと思い、算数は3年生の教科書からやり始めました。するとそれまで解からなくて通り過ぎていたことが一つ一つ解かるようになって、先生の言うことも解かるようになり、算数が面白くなって4年生の2学期には3学期までやってしまい、成績がクラスで一番になりました。6年生の時には算数が学年一番になったのです。

また運動は、逆上がりができませんでした。鉄棒は冷たいし、痛いしつらいけど、それではあくまにやられているからと、毎日逆上がりをコツコツ練習しました。1か月してやっと逆上がりができるようになり、その後跳び箱もできるようになりました。

そんな経験をしたので、4年生の子供たちに嫌いな苦手な科目があったら、別に塾に行くのではなく、教科書でいいから集中してやればよいのです。実は、44歳で失明宣告を受けた時、ショックでその場に崩れ落ちたのですが、4年生の頃を思い出して、あくまに負けてはいかんということで立ち直ったのです…という話です。



▲昨年度の講演の子供達の手紙

#### Q5◆ 子供たちの反応で印象に残っていることはなんですか？

「もし岸さんの目が見えたら、何を見たいですか？」との質問に、「見たいものは沢山あるけど唯一と言われると…（隣にいる奥さんを指さして）奥さんの顔が見てみたい」と言った時の子供たちの反応です。目が見えないということがどういうことか実感したんだと感じました。

#### Q6◇ 毎年講演をする原動力は何ですか？

やっぱりね。人が喜んでくれる、人の役に立つことが大好きです。生きがいなんです。それで視覚障害の私ができること、子供たちに役にたつ講演がいいと思ったのです。台本なしで90分ずっと話すので、私の生きがいもちょっと苦しくなってきましたが、できるだけ続けていきたいと思っています。

#### Q7◆ 健康の秘訣は？

運動・食事・知識です。6時半に起きて、ラジオ体操と筋トレをし、奥さんのおいしい食事が朝の日課です。そして、ジムにいたり、今の時代のことを知るために週刊誌、文芸作品をテープで聴きます。あと、一日おきのお風呂掃除は、全身を使うから体にととても良いですよ。

--貴重なお話しありがとうございました。

Interviewer：高橋 Photo：菰

12年来のサービス責任者とヘルパーがインタビューしました。

# 老人ホーム建設にあたって

NPO法人わの会理事長 佐々木公一



## はじめに

今、高齢期を生きる人々にとって、この社会はますます生きにくい社会になりつつあります。後期高齢者医療費の自己負担の倍加は、直接、生活と命を脅かすことになり、さらに昨年からの新型コロナ対策の無策によって死と恐怖の隙間におかれている高齢者は不安な日々を過ごさざるを得ない状況におかれています。

わの会は多くの市民の御支援をいただき、身体的、精神的に何らかのハンデを抱えながらも、生きるために必要な社会資源をみんなの力で創り出してきました。「安心して頼めるヘルパーを」「気負いなく楽しめるデイサービス」時には「ヘルパー不足を補う養成講座」などなど。その歩みは25年になります。後押ししていただいている府中市、府中社会福祉協議会、東京都にも感謝です。

## ホーム建設の必要性

これまでも認知症を抱えデイサービスを利用されている御家族からは「泊りのある介護を、さらにはこのまま看取りまで行ってもらえるところであってほしい」との要望もいただいています。

地域で「孤独死があったらしい」と聞くと

「他人ごととは思えない、わの会の仲間のことになる」とスタッフが心配します。時には、施設入所者から「わの会ホームがあれば移りたい」「私の年金で賄える老人ホームは無いのかな」「市内に空きがなく市外の特養に入所せざるを得なかった」という声もお聞きする昨今です。府中市においては5年後の高齢化率が22.6パーセントになり、高齢者単身世帯と高齢者のみ世帯が増え、ますます認知症高齢者及び要介護認定者の増加も見込まれることを示しています。

わの会が目指す老人介護施設とは、これまでもそうでしたが、高齢者福祉事業に携わるにあたり憲法25条、及び老人福祉法の基本理念である2条、3条を踏まえ、わの会の理念に基づき「つながりあって（ネットワーク）、一人一人を大切に（愛、逢）、凛として生きて行こう（りんりん）」を生かした老人福祉事業の実践に努めて参りました。今新たに多くの会員から終の棲家として入所施設の建設が求められています。誰もが「人」としての尊厳を最も尊重することを中心に据えた老人ホームの建設に努めていく所存です。わの会老人ホーム建設事業が成功できますよう皆様方のご協力を切にお願いいたします。

## 老人ホームの形態

- ①わの会構成メンバーには介護保険対象外の方や、医療行為が必要な障害者もおられることから、住宅型有料老人ホームが適当ではないか。
- ②住宅型有料ホームは老人福祉法第29条で規定されている。基本的性格—高齢者の住居、外部の介護サービスを利用、食事などの支援サービス付き